

【決議事項】 第1号議案 令和7年度事業報告の承認について

令和7年度 事業報告

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

1 概 況

日本政府観光局（JNTO）が発表した2025年の訪日外国人旅行者数（年間推計値）は、4,268万人となり、初めて4,000万人を突破した。過去最高だった2024年（3,687万人）を15.8%上回り、過去最高を更新した。

このような状況のなか、令和7年度は、「富士の巻狩り・狩宿さくらまつり」、「富士山お山開き」などの予定していたイベントや事業を実施するとともに、国内外の観光客を呼び込むため、4月からはユーチューブの観光PR動画を製作・発信し、12月からはInstagramの第2アカウント「富士宮市観光協会【公式】総合情報」を開設するなど、積極的なSNSの活用に努め、富士山をはじめ、朝霧高原、白糸ノ滝、田貫湖、芝川の田園風景など美しい自然と、富士山本宮浅間大社・大石寺など由緒ある神社仏閣や食に関する情報を発信した。

主要事業の観光誘客・イベント事業では、観光協会主催事業として、特産品の新規開発事業である「それ、みやげにして宮！」事業、「ふじのみや門前市まつり」及び「あさぎり高原まつり（10月1日からの1か月間）」を開催し、観光協会が総合的な情報発信を担い広く市外に向けてPRした。また、富士山と中秋の名月を愛でる会、田貫湖まつり、白糸の滝のライトアップ、富士山の麓のまちの旅コンテスト等に協力し、観光誘客に努めた。

富士登山については、登山期間中のマイカー規制や新たな入山規制を周知するとともに、表富士宮口五合目において、登山者への安全登山啓発と富士宮をはじめとする富士地域の観光案内等を行う富士登山ナビゲーター（英語通訳ガイドと日本語ガイド）を配置して登山者の安全確保に努め、無料ヘルメットの貸し出しを行った。

広域的な取り組みとしては、しずおか富士山利活用推進協議会の構成団体として、6月には東京駅に隣接する東京シティアイでの「しずおか富士山PR展2025」、11月に名古屋駅のエスカ地下街での「しずおか富士山PR展in名古屋」を開催し、富士山周辺市町の観光や産業等の魅力発信と富士宮やきそばなどの富士山麓の特産品の販売を行い、観光誘客に努めた。また、しずおか富士山利活用推進協議会の構成員（富士市・富士宮市・御殿場市・裾野市・小山町）が連携して誘客活動を推進することを目的に各市町がそれぞれのデザインで推し活カード300枚を作成し、11月17日に開催した「しずおか富士山PR展in名古屋」を皮切りに1枚300円で販売を開始した。（富士宮駅前観光案内所、ここずらよ及び田貫湖瓔珞の家で販売中）

観光客の回遊性の向上では、石川タクシー富士が実施した、白糸朝霧地区の観光客の回遊性の向上を目的として、4月26日～5月6日のGW期間に白糸の滝発着で白糸朝霧地区の観光施設を周遊した「あさぎり周遊乗合タクシー」を支援し、オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業として、9月1日～令和8年1月31日の期間に新富士駅から本栖湖観光案内所までの区間を運行した「富士山西麓乗合タクシー」をPR等で協力した。

観光案内業務については、富士宮市や富士山を訪れる観光客をはじめ、電話による相談、照会等様々な方の利用に対応した。外国人の対応としては、英語を話せる職員が対応するとともに、翻訳機を活用するなど、おもてなしに努めた。また、事務所を兼ねた富士宮駅観光案内所では、各種イベントの情報、旅館、ホテルの紹介、観光施設の案内、絵葉書・カレンダーの販売等を行った。また、富士宮市が実施している、世界遺産富士山の構成資産や関連施設間等の周遊や世界遺産としての富士山への理解促進のための「富士山デジタルスタンプラリー」に富士宮駅観光案内所が対象施設として協力した。

教育関係では、富士宮北高校の「総合的な探求の時間」の講師や市内の小・中・高校生が行う総合学習等への助言・協力を行った。また、2年ぶりに再開された「東洋大学国際観光学部 佐野ゼミ富士宮プロジェクト」のゼミ生に富士宮市の観光の状況等について説明を行うなどの協力を行った。

富士と琵琶湖を結ぶ会事業については、一般市民の募集を行い、近江八幡市長、議長、富士と琵琶湖を結ぶ会との交流会を行うとともに、琵琶湖への富士山御霊水献水式など公式行事を実施した。

白糸ノ滝駐車場の利用状況については、乗用車の利用台数は過去最高だった前年度を上回り、安定した運営状況となった。白糸ノ滝駐車場は観光案内所の機能も併せ持つため、訪れる観光客に休憩環境を提供するとともに、北部地域の観光案内の拠点として観光施設等のパンフレット等を備え情報提供した。また、各種メディアを通じての誘客宣伝による白糸ノ滝への観光PRなどを実施した。